

本研究では、生物活性と毒性が分子の形と官能基の三次元配置に起因することに鑑み、Spliceostatin A が持つ部分構造を論理的に変換し、各種誘導体を合成する。そして、構造活性（毒性）相関について検証することにより、強い AR-V7 の発現抑制作用を有し、かつ低毒性な誘導体を設計・合成することを目的としている。去勢抵抗性前立腺ガン（CRPC）治療領域において、特許性のある新骨格・化合物の創出を目指す。